

企業でのESD研修で 伝えたいこと

ポイント抜粋

2009.10.4

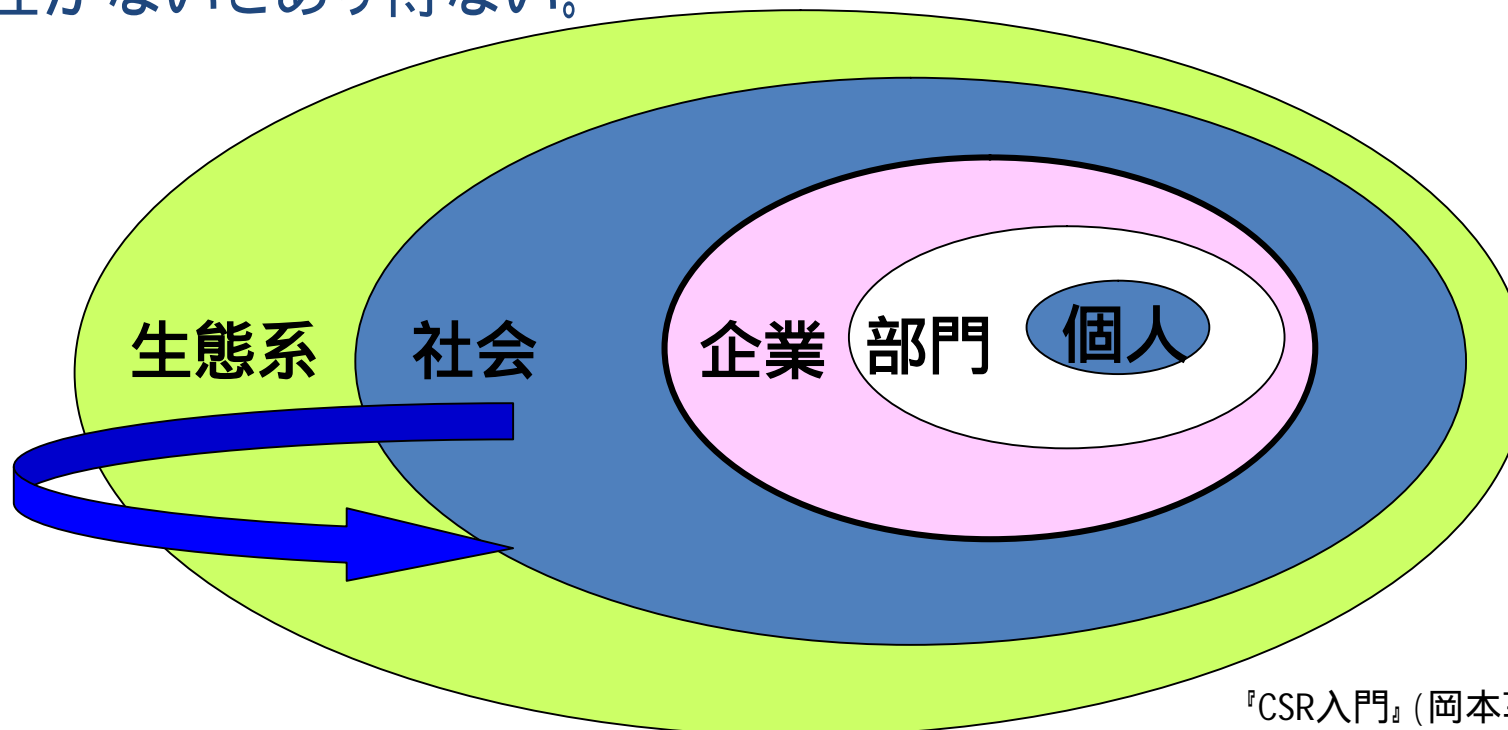
立教ESD研究センター研究員

(株)博報堂

中野民夫

岡本さんより 生態系あつての社会、企業

企業の持続可能性は、取り巻く業界、社会、そして自然界の持続可能性がないとあり得ない。



『CSR入門』(岡本享二)p.37

「環境は経済の一部ではなく、経済が環境の一部なのだ」(レスター・ブラウン)

CSRの本質は、地球環境の保全、すなわち生物多様性の保護や生態系の維持(岡本) 2/2

阿部先生より 持続可能性の三つの公正

(1) 「世代間」の公正:

将来の世代につけを残さない

(孫や未来の子どもたち、7世代先を考える)

未来世代
(時間軸)

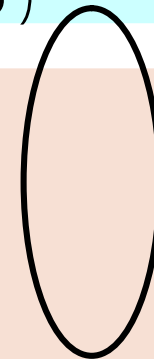


(2) 「世代内」の公正:

社会的弱者につけを回さない

(途上国の児童労働、南北や国内の格差)

社会的弱者
(空間軸)



(3) 「種間」の公正:

人間だけでなく生態系から考える

(地球は万物の母、生物の多様性を守る)

自然生態系
(人と自然の
関係軸)

つまり、持続可能な社会をめざす世界の
大きな流れの中で生き残る企業は、

自分たちだけでなく、

1. 未来の世代

2. 途上国や社会的弱者

3. 生きとし生けるもの

のことを考え、責任を持つことが不可欠に！

この視点は、まともな会社ならもう標準装備！



さらに、「リスク」と「チャンス」を、具体的事例で紹介。
法規制、国際会議など、国内外の関連情報も重要。